

桃園結

シカトやり放題

～何をされても無視しようと耐忍ぶ少女たち～

本編269枚

はくおうか
私立・白凰華学園

エリート^①の育成を目的とした
屈指^②のスパルタ進学校だ。
その特徴は校則の厳しさにある。

しかし、生徒指導のあり方に
何かと煩い^③昨今、体罰^④が行われる
ようなことはもちろんない。

……が、だからこそ
その指導はもつと
姑息^⑤で陰湿だ。



そしてもっか、
俺が科せられた罰は

学園中からの存在の無視、
いわゆるシカト。

俺はここ数日、
教師を含む全ての人間から
存在しないものとして
無視され続けていた。

おいおい、女子更衣室のぞきの
罰にしては、重すぎるだろ。



やれやれ
今日も居たたまれない
授業が始まるのか。

あ、俺もう教科書すら
出してないや。

寝るのも飽きたし、
クラスの女子でも視姦するか。
そうになると、やっぱり……



一之瀬真帆

俺の目の前の席だ。
性格がいい上に、かなりかわいい。

いや、すまん、言い直させてくれ。

めちやくちや
かわいい！

はあ……。
彼女にまで、無視されるのは
辛いなあ……。



いや、ポジティブだ
ポジティブだよ、俺！

ほら、一之瀬のおっぱい、すげーでかいよ。
さ、視姦、視姦と……………。

……………。

そういえば、俺……………
存在無視されてるんだよな……………。

ん？あれ？これって、もしかして、俺、
何しても存在無視されるってことか？
……………た、試してみるか……………？

俺はおもむろに、一之瀬の
おっぱいを揉んでみた。

ひゃあ

ひゃあうん

むにゅ



ちよ

えいっ?!

え?!


おいおい、一之瀬
俺をシカト
しなくていいのか?

くっくっ

むっ

えっ


っ?!




一瞬、ぎよっとなった教室の空気も
俺の一言で、授業を取り戻した。



どうやら、
無視を決めたようだ。



そう、この学園で
懲罰中の俺は、
存在しない人間
でないといけないのだ。



いいぞ、思った通りだ。

一之瀬だけは、
納得いかないとはかりに、
しばらく俺のことを
睨んでいたが

結局、無視を決めたようだ。

っていうか、やばい
かわいすぎる……

じゃあ、心置きなく
おっぱいさん
堪能しま〜す

うはああ、
やわらけ〜

一之瀬
やっぱすごいな
お前のおっぱい

もいぬ もいぬ もいぬ

.....

.....

ブラの上から
突起物も
刺激して

ひゃん
あっ
ん

もみ

ぐっ
ぐっ

もみ

ほら、一之瀬
授業中だぞ

変な声
出しているのか？

.....

はっはっはっ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

もみもみ

もみもみ

もみもみ

もみ

って、おいおい、
ほらノートの字が
震えてるぞ

.....

そうそう
授業中なんだから、
静かにな

.....

んんん

だ、だ、だ、だめ……

こ、声……
声でちやう……

が、我慢……
我慢だよ、
真帆

き、気持ちよく
なんか
なっちやだめ

みんな静かに
授業受けてるんだから

さて、そろそろ
生おっぱいかな

もみもみもみ

はっはっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



ひゃあ
あ

あ
あ
あ

ちよ、嘘でしょ……
こんなところで……

お願い、
ダメだって……

ほら、一之瀬
ここに存在しない
人間に話しかけない

だ……だって、
恥ずかしくて
死にそう……

ほら、一之瀬

う~~~~~

Ever

ぷん

ひび



はっ
はっ
はっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

なんだこれ
柔らかく

んっ
んっ
んっ

もみゅ
もみゅ
もみゅ

もみ
もみ
もみ

もみ
もみ
もみ

うおおおお
生おっぱい
気持ちいい

一之瀬、お前の
おっぱい、すげーよ
すげー柔らかくーよ

.....

.....

んっ

んっ

こゝこれムリ……
こえ……
声でちやうよ……

じゆ……授業に……あふつ
授業にひゆうちゆう……
集中しないと
いけないのに……

もたもたもたもた
もたもたもたもた
もたもたもたもた



おお、すごい
絶景だ、絶景。
一之瀬のおま○こ
すごいきれいな
ピンク色だ！

……お……お願い……
見ないで……

しかも、
ぐっちより濡れて、
ツヤツヤつた。

……いや……
言わないで……
みんな聞いている……
……は、恥ずかし
……すぎる……
……から……

あ、うん、一之瀬は
気にせず、教科書
読んでろ。
ここに存在しない
人間のたわごとだ。

ほら
シカト、シカト

う~~~~

……
……

ねわち

しん

これが、動かすってことだ。

おらあああああ

ひゃあああう

あああああ
あああああ

うおおお

きもちいいー

……はあああ……んく

……は、はげし……

……ひゃはああふ……

ぐおおおおお……
ま〇こがうねって
チ〇ポに
吸い付いてくる！

ズツ
ズツ

ひゃあ
ひゃあ
ひゃあ

腰が……
腰が止まんねー！


ぱん

ぱん

ぱん

ぱん


ズツ
ズツ



あああああゝ
気持ちいいいいいいいゝ

学校中から
シカトされた存在が
こんなに気持ちいいこと
とは知らなかった。

これは放課後も
やりたい放題だぜ！



さて、そうになると
次のターゲットはもう
あの娘しかいないよな。

たぶん彼女は、
いつも通り
図書室だろうから……。

お、いたいた、くふふ。

いづみさわ あやの
泉沢 文乃

もう見た目はパーフェクト。
これこそ嘘偽りない千年に一人の美少女だ。

おっぱいも、でかいし。

そうだな〜
性格は、隙の無い優等生タイプって感じかな。
まあ実際、学力テストでは、常に校内
5位以内だから優等生か。

ただ、やや潔癖症的なところが
あるみたいで、真帆と違って
ちよっと話しかけづらいというか……。


そう、俺だけでなく、すべての男どもを
寄せ付けない冷たい視線……。うん、いわゆる
孤高な高嶺の花というところか……。

だが、それがいい！

どんなに冷たく凄んでも、まだあどけなさが残る
アンバランスさ。それが、もうかわいくて、ツボる。

おっぱいも、でかいし。

もう親しみを込めて俺は、「文乃たん」と呼んでいる。
もちろん、本人が知らないところでだが。



さてさて、文乃たん。
本を読みふけてますな。
調べものかな。

いかなん、いつもいつもそんなに
気を張ってちゃ。
今や学校で空気存在となった俺が、
ほぐしてやらんとなく。

ひやうり

うへへ、
文乃たんのおしり♪
さわさわさわ。

ん

さわ

さわ

さわ

おお、睨んでる♪
睨んでる♪
いいね、
ゾクゾクくるね〜。

キッ

でも、手は
止まらないけどね。

さわさわ

さわさわ

さわ

その汚らしい手を
今すぐどけて。

おいおい、
文乃たん

あ、文乃たん？

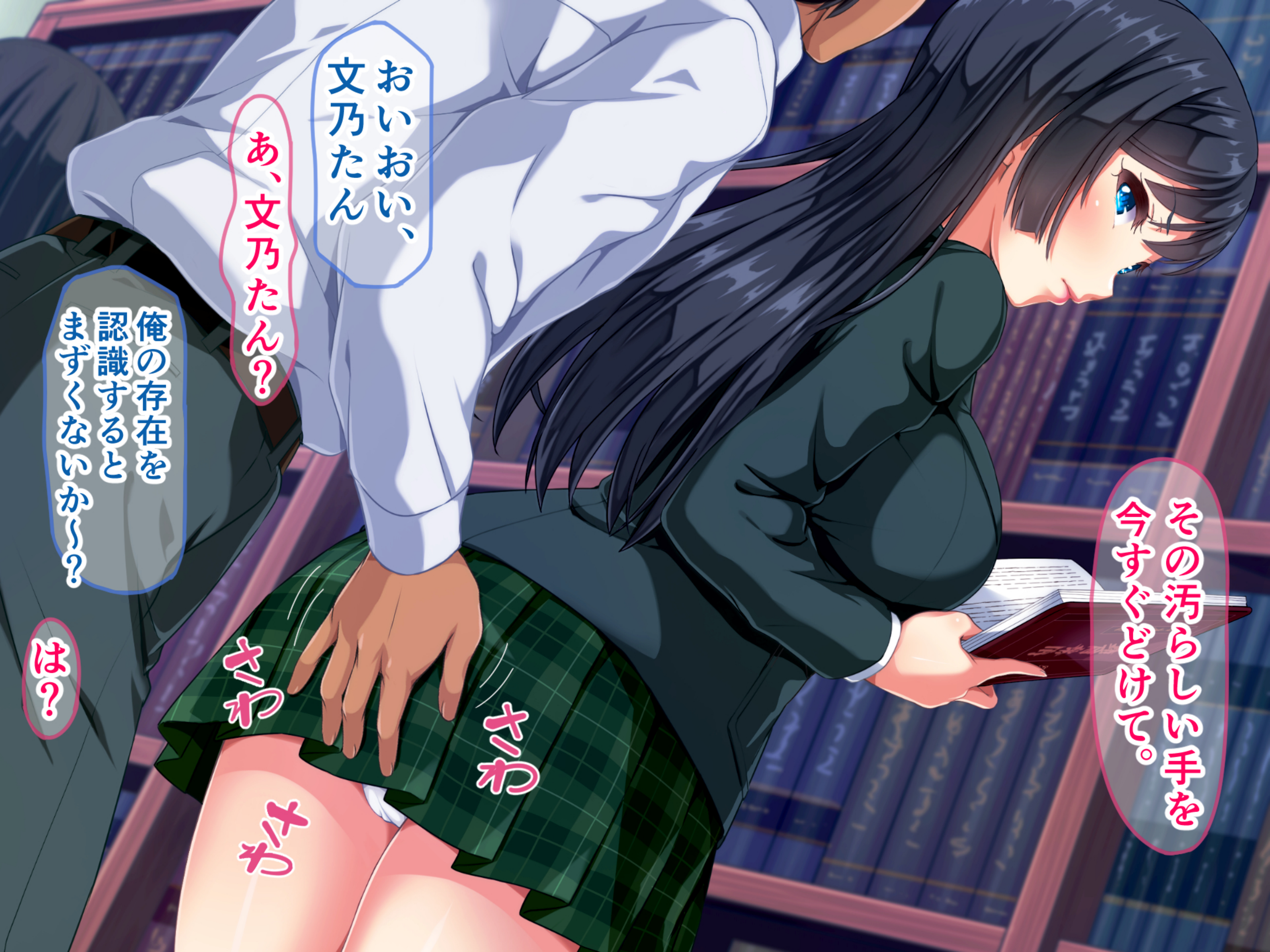
俺の存在を
認識すると
まずくないか？

は？

チワ

チワ

チワ



だって俺、今
学校中のすべての人間から
シカトされなきゃいけない
立場にあるんだぜ。

そんなのと話なんかしてたら
完全に校則違反だろ。

怖いぜ校則違反。
違反者にはどんな罰が
待っているか
わからないぞ。

周りの生徒に
チクられたそれこそ。



それにお前にとって、俺なんて
取るに足りない存在だろ？
いわば空気だよな、空気。

空気のすること
いちいち気にする
必要なんてないだろ？



そうね。
そうだったわ。

……そう、今のは
私のひどらじゅど。

ただあまりにも
異臭の酷い空気が
図書室に入ったので
びっくりしただけよ。

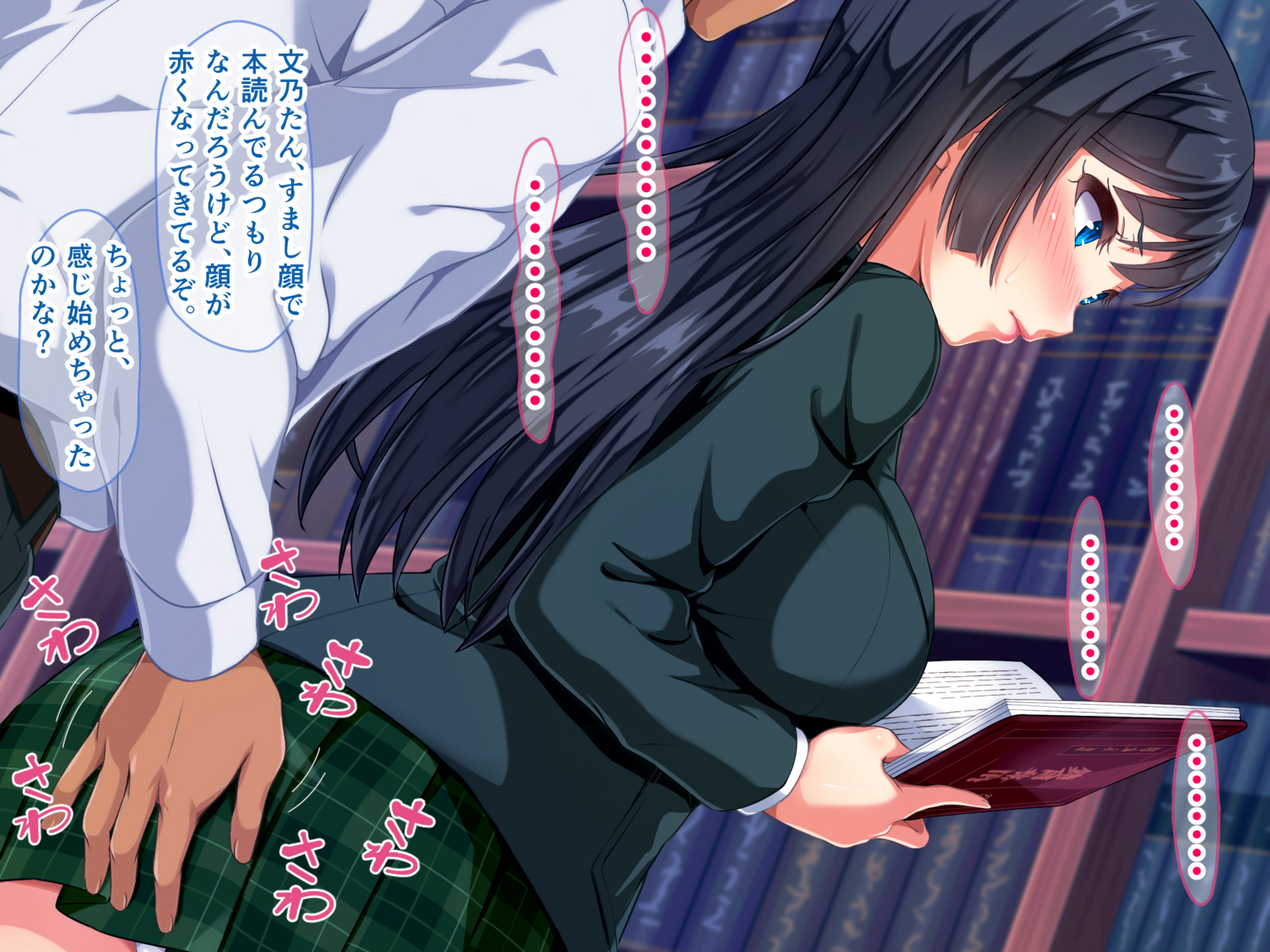
……

ひどい言われようだ……
……だが、それがいい！

文乃たん、すまし顔で
本読んでるつもり
なんだろうけど、顔が
赤くなってきてるぞ。

ちよつと、
感じ始めちゃった
のかな？

さわさわ
さわさわ
さわさわ
さわさわ



キッ

ほら、空気！
俺、空気！

.....

文乃さんに睨まれと
マジ、ビビるな.....
.....
だが、それがいい！

さてさて、
スカートの中は
どうなってるのかなあ

おおおおお
白のおパンツさんだあ！

すげえ、
ぷるっぷるっの
おしりだあ

文乃……
俺、お前を選んで
ホントよかったよ。

ぷるっ

ぷるっ

クンクン
はああく
いい匂いだあ。

クンクン……
クンクン

●●●●●●●●●●

クンクン

クンクン

……ちよ……。
そ、そんなとこ……。
匂い……か、かがないで

●●●●●●●●●●

クン
クン

ん？何か
言ったか文乃？



クンクン

クンクン



す〜はあ…
す〜はあ…

す〜はあ…
す〜はあ…

あああ〜…
匂い、うめえ〜

クンクン…
クンクン…

234
123

…ちよ、いや…
…そんなとこで…
…深呼吸とかしないで…

あれ？あれあれ？
なんか、匂い嗅いでる
だけなのに……
……少し……
湿ってきてる？

そんなわけ
ないでしょ！

……あ……こ、
これは独り言よ。

わ、わたしは、
本を読みゆことに
集中しているわ。

かんだ(笑)
くふふ、文乃
やっぱかわいい。

じわっ……

はむん

ひっ

あ、濡れてないこと確認するだけだ

本に集中してるはずの文乃が、まさか匂いを嗅がれただけで、

パンツを濡らす変態でないことを立証しないと。

濡れてないよなあ？
文乃の真面目だもんなあ。
こんなことで、
濡れるわけないよなあ。

むん

もん

もろっ

クワ

クワ

.....

あれ？
あれ、あれ、あれ〜？
濡れてきた？

かなり濡れて
きたよね？
ほら。

俺のほっぺも、
なんかしっとり
してきたし。

.....

文乃お、
ほらなんで？
なんで、さらに
パンツのシミ
大きく
なってるの？

じわわん... ひひ

ねえ、文乃お
なんでえ？
ねえ、ねええ？

.....
言わないで.....
いや.....

.....

しようがない
答えてくれないなら、
こっちに訊いてみるよ

……いや……ちよ、
ちよつと、やめて。

ほら、文乃
俺は空気だよ、
空気。

空気なんて
無視してれば
そのうち
通り過ぎるって

……ほ、本当？

むん

ど

ホント、ホント
文乃が反応さえ
しなければ、
飽きてどっか
行っちゃうから。

……

……そう……
無視してれば、
どっか行くのね……

そうそう、文乃が
いい反応するから
俺、調子に乗っ
ちゃうんだよ。

俺に何されても
動じない、
文乃の集中力を
みんなに見せ
つけてやれ。

……そ、
そうね……

嘘だろ文乃……
お前、天使？
何でそんな
心広いのよ(笑)

ふんっ

.....あんなに.....
.....う.....

.....お、
おっひい.....

.....おっひくて.....
.....みゆり.....

ほら、どうした文乃、
途中でギブアップか？

.....あ.....

あ.....

あ.....

あ.....

あ.....

あ.....

あ.....

あ.....

ほら、休むな
一気に挿れろ

.....あ.....

あ.....

あ.....





シカトやり放題

～何をされても無視しようとする耐忍ぶ少女たち～

制作 桃園結